YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MH	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2	派遣国	台湾
派遣大学	国立政治大学		
期 間	2025 年 9 月 1 日～ 2025 年 12 月 31 日		

【生活編】

1．滞在先

滞在形態	学内の学生寮 ／ 学外の学生寮 ／ アパート ／ その他（ ）					
部屋	個室 ／ 2 人部屋 ／ 3 人部屋 ／ その他（ ）					
設備	*共同＝◎ 部屋にあるもの＝○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約（ 47,800 ）円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	（ 徒歩 ）で、約（ 5 ）分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2．日常生活

（1）1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	30,000 円	基本的に毎食外食でした。
学用品購入費	1,000 円	教科書の購入で 4,000 円程度でした
交通費	3,000 円	バス、MRT、新幹線、タクシー等
交際費	3,000 円	友人へのプレゼント等
その他	3,000 円	日用品等
合計	**40,000 円**	*概算で記録してください。

（2）治安状況・危険地域など

およそ日本と同程度の治安であったと感じています。人が集まる台北駅や中山駅周辺では事件が起きたり、龍山寺付近は客引きが多かったりと台北中心部の治安は少々悪かった印象です。大学周辺は、女性でも一人で夜遅く歩くことができます。

３．海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学／ その他（　　）		
加入期間	（　4　）ヶ月間	保険料	（　49,990　）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	（　　）ヶ月間	保険料	（　　）円

４．滞在都市についての情報

滞在都市／町（　　**台北**　　）

有名な観光地が多く集まる都市で、アーティストのライブの会場になることも多いです。台北 101 や夜市、中世記念堂など繁華街が多く、治安も日本と同等レベルのまちです。

国立政治大学は台北駅周辺の繁華街からバスで 50 分ほど、台北 101 周辺からはバスで 20 分ほどの場所にあります。台北駅周辺からのバスに乗るとおよそ始発から終点までの乗車で座ることができるので、長時間でもあまり気になりません。しかし台湾のバスの運転は丁寧とは言えないので注意が必要です。

大学の周辺は落ち着いていて、大きなショッピングモール等はないものの、スーパーやドラックストアも何件かあり日常生活には困りません。留学生用の寮は、キャンパスから連絡バスで 15 分ほどの自強舎と、キャンパスから徒歩 5 分の iHouse の 2 種類があります。iHouse は人気で抽選ですが、自強舎には留学生は確実に入寮することができます。

【学業編】

1．大学情報

大学	国立政治大学	所在地	台北市文山区
最寄空港	松山空港	空港からの距離	15km
空港⇔大学	（　MRT 文湖線「動物園」駅下車、緑１・ＧＲ１ 政大下車） *移動手段		
学生数	約 16,000 人	留学生数	約 1500 人
学部	文學院 ・中國文學系 ・歷史學系 ・哲學系 理學院 ・応用数学系 ・心理学系 社会科學學院 ・政治学系 ・社会学系 ・財政学系 ・公共行政学系 ・地政学系 ・経済学系 ・民族学系 法學院 ・法律学系 商學院 ・金融學系 ・国際経営興貿易学系 ・会計学系 ・企業管理学系 ・情報管理学系 ・財務管理学系 ・危機管理保険学系 外國語文學院 ・英國語文學系 ・アラビア語學系 ・英語學系 ・ヨーロッパ諸言語學系 ・日本語學系		

	・韓国語學系 ・スラブ諸言語學系 ・東南アジア諸言語學系 ・トルコ語學系 コミュニケーション學院 ・新聞學系 ・広告學系 ・テレビ、ラジオ學系 国際事務學院 ・外交學系 教育學院 ・教育學系 国際イノベーション学院（ICI） 情報學院 ・情報科學系 國際金融学院 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。
学部/専攻	国際事務學院/外交學系 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。

２．週間スケジュール

①（　　9　　)月～(　　12　　)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			Topics on JapanA1: Language		Contemporary Social Problems and Justice
午後			Mandarin Course- Part-time Applied Mandarin	Urban Design	Contemporary Taiwan History and Its International Relations

3．履修内容

科目	Topics on JapanA1: Language		
履修期間	Fall Semester	単位数	2
授業内容／形態	第二言語習得（SLA）に関する基礎知識を学び、言語教育や言語学習について考える力を養う講義。学習者の母語の影響、中間言語、インプットとアウトプットの役割、年齢や個人差（動機づけ等）が言語習得に与える影響など、多様な要因を体系的に理解する 。学んだ理論を活用して自身の外国語学習プロセスを客観的に考察し、効果的な学習方法を見出すことが目標とされており、期末にはその実践として中国語でのレポート執筆（3〜5 ページ）が課された 。		
成績	A＋		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Mandarin Course- Part-time Applied Mandarin		
履修期間	Fall Semester	単位数	3
授業内容／形態	中国語既修者のクラスで、教科書を中心にグループワークなどで進む。 チャプターテストとディクテーションテストが 3 回ずつ、中間と期末テストが 1 回ずつ、最後にスピーキングテストが課された。		
成績	A＋		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Urban Design		
履修期間	Fall Semester	単位数	2
授業内容／形態	都市設計の基礎理論と法体系の習得： 本講義は、都市計画と都市設計の相互関係を軸に、都市設計の法的な位置づけや専門家としての役割など、空間形成の根幹となる理論を体系的に学ぶ。。期末にグループプレゼンテーションとグループレポートが課された。		
成績	A＋		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Contemporary Social Problems and Justice		
履修期間	Fall Semester	単位数	3
授業内容／形態	現代の複雑な社会問題や正義について、特定の学問領域に縛られない学際的な視点からアプローチする手法を学ぶ実践的な講義。学術文献講読とディスカッションを通じて、批判的思考（Critical thinking）に基づく問題発見能力と分析力を鍛える構成となっている 。		
成績	A－		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Contemporary Taiwan History and Its International Relations		
履修期間	Fall Semester	単位数	2
授業内容／形態	1945 年の日本統治終了から現代にいたるまでの台湾の歴史的展開を、日本やアメリカや中国といった国際関係の文脈から学ぶ講義。 期末試験が課された。		
成績	A＋		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

＜総括＞

（1）全体的な感想　　*留学生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

この留学を通じて私は、多くの経験をすることができました。

第一に、他国の友人との会話を通じて、多角的に物事をみることや日本人としてのアイデンティティを再認識しました。特に印象に残っているのは、政治や歴史といった少しナーバスな会話のなかでの、「日本人は戦争を経験しても、アメリカに対して恨みを持たないのか」という問いです。日本にいれば当たり前であったことが外に出ると特殊な歴史的選択の結果として感じられているということに気づかされ、物事を多元的に捉えることの難しさと重要さを痛感しました。また、講義などで戦争や核といったテーマを扱う際に、日本人である自分の発言が周囲から注目されているという重圧も感じました。そもそもこういった少し複雑な経験ができるのも交換留学の良いところであり、この留学がなければこういったことを身をもって気づくということはなかったかもしれません。

しかし一方で、人生で初めての東洋人差別に直面するという経験もしました。自ら選んでアジアに学びに来ている人たちの中でさえ偏見を持つ方もいて、根付いた偏見を取り除くことは難しいと感じるとともに、自分自身の中にもイメージだけで決めつけてしまう側面があることに気がつきました。

第二に、挑戦することの大変さを改めて感じました。留学当初は英語すら通じない場所があったり、台湾の方の特有の話し方が怖くて自分の思うように行動できない部分があったりしました。しかし周囲の積極的な留学生たちも、怖いと感じながら行動していると知り、なにもしないことがもったいないと思うようになりました。

あえて難しい講義を取ったりイベントに参加したりと、短い期間で自分のやりたいことにどんどん挑戦したのですが、これらはすごく体力の要ることで疲れてしまうこともありました。しかしこういった経験のなかで、不安を抱えたままでもまずは挑戦することや、うまくいかなかったらそのときに修正していくという行動力が身についたと感じています。

第三に、多くの出会いに恵まれたことです。本当にたくさんの留学生や正規生、台湾の学生がいて、それぞれが多様なバックグラウンドを持っていて、全てすごく貴重な出会いであったと感じています。

特に仲良くしていた人たちとは今でも連絡を取り合ったり、オンラインで話したり、旅行の計画を立てたりと関係が続いています。

また、この留学全体を通して、台湾の方をはじめいろいろな国の方たちがいかに日本のことを気に入っていて信頼を寄せているかを強く感じました。すごくうれしかったのと同時にこういった日本のブランド力を損なわないようにしなければという責任も感じました。これも留学をして、その環境の中で生活をしなければ気がつかなかったことだと思います。こういった経験をすべて今後も大切にしていきたいと考えています。

（2）今後の展望　　*この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今後、この留学で得た経験を大学での学びや将来の社会貢献の場面で活かしていきたいと考えています。

学問の面においては、留学で得た多角的なものの見方をゼミ活動やグループワークに反映させたいです。言葉の壁がある中でのディスカッションにも取り組んでいたので、その分意見の対立を怖がらずに積極的に話し合いにも参加していきたいです。

また、スキルやキャリア形成の面では、中国語の実践的な基礎を土台にして HSK の取得やスコアアップ、就職活動等にも取り入れていきたいです。留学を経て、行く前よりももっと台湾がすきになり、今まで考えたこともなかった台湾支社があるという条件も企業選びの選択肢として取り入れてみたいです。

もともと都市学系であり、台湾のまちづくりや政治の体制にも興味がありつつ、建築やシティプロモーションもどれも面白いものが多かったので、今後のゼミ活動や講義の中での比較対象として取り入れることもしていきたいと考えています。

（3）後輩へのアドバイス　*留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

これから留学に行く方々には、まず渡航先の文化や歴史、日本とのつながりについてある程度の知識を持っておくことをお勧めしたいです。何気ない風景や友人の会話がより自分事として響くようになると思います。特に、その国での日本や日本人の立場についてイメージしやすくなり、相互理解にも役立つのではないかと考えます。

また、外国人・留学生であることの特権を最大限に生かして何事にもどんどん挑戦してほしいです。留学期間は限られた時間ですし、語学留学などと違い講義を受けることができるので、難しい講義でも学びたいと思ったらとりあえず受けてみるのがいいと思います。また行きたいと思ったイベントや旅行等にもどんどん参加するのがいいと思います。留学期間中の失敗は、終わってみれば全く失敗ではないどころかプラスの経験になっています。

そして、ルーツやバックグラウンドの違う友人たちとの出会いも大切してほしいです。もちろん留学期間中全く日本の友人と関わらないのは不可能ですし、不利になります。しかし、本当に多くの出会いがあるので自分と合う人は必ずいるし、知らない土地で家族もいない状況で一緒に過ごした友人は本当に一生ものであると感じています。

台湾と聞くと、中国語中心の留学になるのではないかと考える方も多いかもしれませんが、そんなことはありません。私の周りはほとんどが英語圏からの留学生で、留学中は毎日英語に触れていました。その国や留学先のことをよく知っておくことでこういった内情も事前に把握でき、具体的な目標やプランが立てやすいと思います。

ぜひたくさん勉強してたくさん遊んで、失敗も経験という気概で肩の力を抜いて留学に望んでみてください。応援しています！